税の申告はお済みですか

三月十五日までです

昭和五十二年分の所得税の確定申告と納税は、三月十五日までです。まだ申告がお済みになっていない方は、早めに済ませましょう。

確定申告書の書き方については税務署から送付された「申告書の書き方」や「確定申告の手引き」などに説明してありますが、もっとくわしく知りたいことや、よくわからないことがありましたら、税務署か税務相談室に相談しましょう。

確定申告をしなければならない人が申告をしなかったり、誤りのある申告をしますと、決定や更正が行われ、追加の税額はもちろん、加算税などを納めなければならないということです。申告するときにはよく確かめて、正しい申告をしましょう。

15日近くになると混雑します。申告はお早めに

国税に不服のあるときは

税務署から更正・決定や差押えなどの処分を受けて、その処分に疑問や不服があるときは、税務署に異議の申立てができます。異議の申立て期間は、処分を受けたときから二か月以内です。

また、異議の申立てに対する税務署の決定に、なお不服があるときは、国税不服審判所に審査請求をすることができます。審査請求の期限は、異議の申立てに対する決定を受けたときから一か月以内です。

しかし、青色申告をしている人は、異議の申立てをすることなく直接、審判所に審査請求をすることができます。この場合、審査請求の期限は、処分を受けたときから二か月以内となっています。

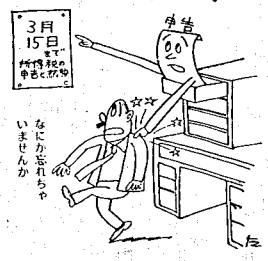
審査請求は、裁判のように、弁護士にたのまなければできないような難しい手続きはありません。そのうえ、費用も一切かかりません。また、審査の結果、新たに税金が増えるということもありません。

国税不服審判所は、国税局、税務署とまったく異った独立の機関で、納税者の正しい権利を守ります。

なお、国税不服審判所の所在地は次のとおりです。

関東信越国税不服審判所　新潟支所

新潟市営所通二番町六九二―五　☎〇二五二―二八―〇九九一



国民年金保険料

四月から二千七百三十円に

国民年金保険料は、五十三年四月分から、現在の月額二千二百円から二千七百三十円に改定されます。

現在、国民年金の財政は、これまでの年金額の改善や、物価スライドによる増額、あるいは年金受給者の増加などの事情で、納付額が保険料収入額を上回る状態が続いています。そこで、加入者から〝給付に見合った保険料の負担〟ということで、昨年から毎年段階的に保険料の引上げをお願いしているものです。

月二千七百三十円の保険料額は、五十三年四月からの予定保険料二千五百円に、年金額と同様に物価スライド率九・四％が加算されたものです。なお付加保険料は、四百円にすえおきです。

テレビで税金を解説

税金をわかりやすく解説した「中村メイコのくらしと税金」という番組が、毎週土曜日の午前十時四十五分から十一時まで、新潟放送テレビで放送されています。ぜひごらんください。なお三月は次のようなテーマで放送されます。

四日…「確定申告と納税」
十一日…「退職金と税金」
十八日…「もうすぐ一年生」
二十五日…「税に不服のあるときは」

親と子の会話

新津高校マンガクラブ

中山　秋（2年）

お買物、ご用命は市内で

電化製品のことなら
おまかせください
ナショナルショップ　完全アフターサービス
井浦電気
新津市本町2丁目　TEL 代表 4 4141

内科・小児科・レントゲン科
大坂医院
新町1丁目6-12　TEL(4)5122

明治夜話

(23)

長岡藩家老河井継之助が小千谷慈眼寺において、山道軍の軍監岩村精一郎に面会し、会津藩等を説得して、事を平和裡に解決したいという申し出を一蹴されたのは、戊辰五月二日のことであり、この頃、米沢軍の先発隊は中条豊後に引率されて、米沢領国境玉川に向かって進んでいた。この一団は隊士四七六名、夫卒一五六名、その他軍吏等約二十数名から成っていた。

また、米沢軍の本隊が中越戦線で戦闘中の長岡藩を応援するため、米沢城の三の丸の馬場に集合して、南御門から繰り出したのは五月一三日のことで、この時の越後出兵の総督は色部長門、参謀は甘粕備後継成、大隊頭は大井田修平で、参謀甘粕備後の日記によると、この大隊の兵力は隊士四〇三名、同心一〇名、夫卒一三二名、合計五四五名となっているが、その他、軍吏及その手廻りの者が数十名附記されているから総勢は約六百人であった。

この行にあっては、総督色部長門は所労のため駕籠によって先発することが多く、この本隊の統率指揮は専ら参謀の甘粕備後が当たっていた。

この米沢軍の本隊は、一四日には小国町に宿陣、一五日に小国を発し、下関村渡辺三左衛門邸に到着、一六日に下関を発し中条駅に宿陣、一七日に中条を発し、その晩、新発田に宿陣しようとしたが、事の行違いから新発田で当初宿陣を断ったので、米沢兵が憤激して将に兵端を開こうとする一幕があった。

なお、この日には米沢藩では新発田藩に出兵を要請したところ、〈近日出兵の儀を諾した〉ものの、その期日については言明を避けていた。

この五月一七日には米沢軍の右の本隊は未だ新津に到着してはいない。然るに『戊辰騒援記』に、「昨十七日夜、会藩百四十人程、米藩二百人程……新津町止宿ニ御座候」とあるのは、中条豊後の先発大隊の中の一隊であろう。

また、五月一八日にも未だ米沢軍の本隊は新津に到着していないが、新津村帳簿「去辰御休泊取調日記」（『新津市誌』参照）には、

十八日お泊、上下二百七十七人、矢代田行
右は米沢、斎藤・芋川・朝岡・宇（虫食）江御通行に相成候。

とある。右の三隊頭の斎藤主計、芋川大膳、朝岡峻次は中条豊後大隊頭の輩下であったから、右は色部長門、甘粕備後の率いる米沢軍の本隊ではなく、先発隊の支隊である。

米沢本隊の新津宿陣と沸き返る村松城下

阿達　義雄

五月一八日、米沢軍の本隊は新発田を発し、笹岡を経て水原に到着。総督色部長門と中老若林作兵衛は当時北越第一の豪家市島邸に泊り、参謀甘粕備後は豪農佐藤家に泊っている。

甘粕備後は市島邸について、〈高大美壮、恰も列侯の城郭の如し〉と、その日記に特記している。

水原には会津藩の本陣があり、ここに諸藩の重役が来ていたので、この夜、会津藩家老西郷勇左衛門、軍事奉行日向左伝、庄内藩の石原多門等が市島邸に参集して軍議に夜を更かしたのであった。

なお、甘粕備後はその日記に、「是日、中条豊前水原に在って、なほ又、斎藤、香坂与（三郎）芋川、朝岡等の隊を加茂へ進ましむ。」と記しているので、新津村帳簿の一八日の条に〈矢代田行〉とある行先の目的地は加茂であったことを立証することができる。

五月一九日、米沢本隊は水原を発し、新津に入ったが、甘粕備後は、五泉が先祖甘粕景継の旧領という因縁に惹かれ、一小隊を率いて本隊とは分かれて、水原から分田に行き、阿賀川を渡って五泉に行く途中、下新村の本間彦左衛門（桑名の臣籍）という郷士を訪ねた後、五泉、村松と進み、村松に一泊し、翌日、新津に入るはずの本隊と相会する約束であった。

米沢軍参謀、甘粕備後継成は、その夜、実に驚愕すべき情報を得、また、村松城下における意外の大騒動を目撃した。

戊辰五月一九日、それは長岡城の落城の日であり、長岡藩、その他の奥羽越同盟軍の兵は敗走中であって、村松藩兵の一部は既に城下に辿りつき、長岡落城の報が逸早くも伝わって、村松城下は沸騰するような騒ぎであった。

だが、この日漸く新津村に泊った米沢軍総督以下の誰も誰も之を未だ全く知らなかった。

（新潟大学名誉教授）

お買物、ご用命は市内で

東芝ストア
より良いサービスと
楽しい暮しに奉仕する店
東芝
(株)八重電商事
本町二　TEL 4－3131(代)

表具
鈴木つりや
本町3☎2-2035